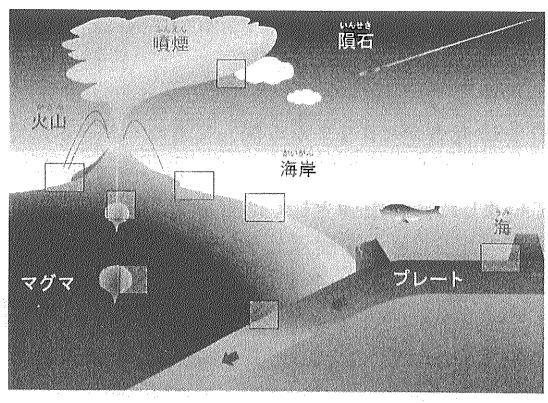
地質ニュース560号，59－60頁，2001年4月
Chishitsu News no.560, p.59－60, April, 2001

さわって覚える石の生い立ちのコーナー
～見て持って実感してみよう石のいろいろ～

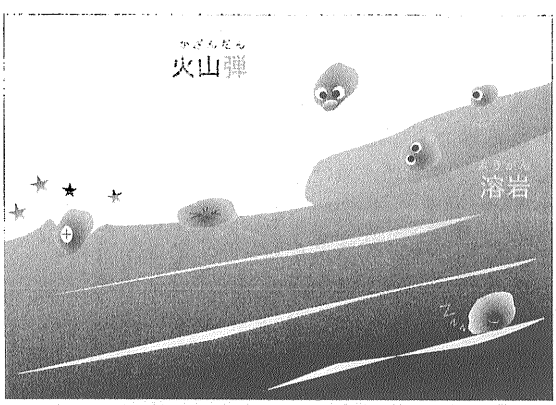
吉　川　敏　之[1)]

世の中にはいろいろな種類の石があります．どこかで聞いて名前を知っている石，教科書に載っていた石，でも実際に多くの種類の石を見たりさわったりする機会はなかったという方が多いのではないでしょうか．また，少しは石に興味がある方でも，博物館や展示館でガラスケース越しに見る展示やきれいに磨かれた石に満足できなかった方もいらっしゃることではないでしょうか．特に子供たちにとっては，まだほとんど聞いたこともない石の名前など，興味がないかも知れません．そこで「さわって覚える石の生い立ちのコーナー」では，いろいろな種類の石を一同に集めるとともに，それを自由にさわってみてもらおうと企画しました．そして，これまで石にあまり馴染みのなかった方でも，実際に手にとってみて感じる手触りや重さで石に少しでも関心を持ってもらえれば，また，おそらくそれまで抱いていた単に硬い・重い・冷たいといった石のイメージを変えてもらえればという意図もありました．

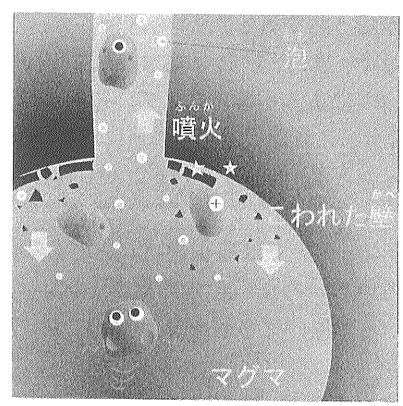


第1図　メインパネル．地球上のどんな場所で石ができているかを示したイラスト．この中に示した四角部分を更に詳しいイラストで説明しました．

石は地球上のいろいろな環境で形成されます．それを反映して多種多様な石ができるわけですが，手にとった石がもともと地球上のどんなところででは



第2図　火山の火口近くでできた石の説明イラスト．火山から噴き出したマグマのうち，地表を流れたものを溶岩，空中を飛んでくるものを火山弾といいます．



第3図　マグマ溜りでできた石の説明イラスト．マグマは地下にあったとき，まわりの石をとかします．溶岩にはそのとけ残りが含まれていることがあります．

1）産業技術総合研究所　地球科学情報研究部門

キーワード：地質情報展，石，標本，イラスト

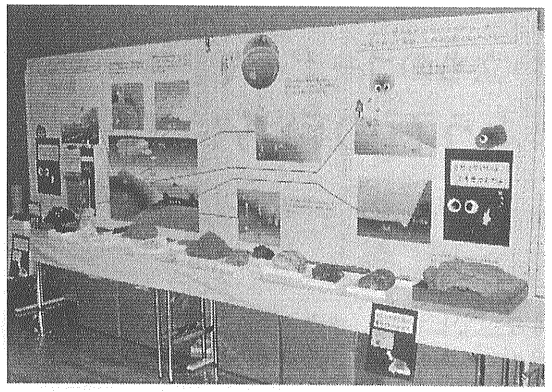


写真1　会場での展示風景．イラストと石とは番号で対応するようにしました．

写真2　カキ貝化石．殻の長さが30cmほどもある大型のカキの化石．これが海岸で見つかったらと思うと夢がありますが，残念ながらこのカキは既に絶滅してしまいました．

きているのかがわかれば，石に対する理解もより深まります．この展示を見た後に，「玄武岩の石が展示してあった」ではなく，「表面のざらざらした穴だらけの石は溶岩としてできたらしい」と思い出してほしかったのです．この企画では子供にも関心をもってもらおうということで，パネルにイラストで石の成因をわかりやすく解説しました．手元の石とは番号を照らし合わせればすぐにわかるようになっています．例えば，火山から噴き出したマグマは地表を流れたものを溶岩，空中を飛んできたものを火山弾といって区別します．実際に目撃しなくてこれが区別できるのか疑問に思う方もいるかもしれませんが，手元の石を見比べてもらえば，みかけの特徴が違う石であることから理解していただけると思います．また，隠岐に産する玄武岩の溶岩には地下深くにあると考えられている石が少量混じっています．これは，溶岩のもとになるマグマが地下にあったとき，まわりの石をとかしたとけ残りが含まれているためとイラストでは説明されています．このコーナーでは島根県内にとどまらず，各地で産するいろいろな石を集めたこともあって，石にもいろいろな生い立ちがあることを実感して頂けたようです．

展示された石は，所内から提供されたそれぞれ種類の異なる18個の石です．好評だったのは大きな黒曜岩，火山弾，貝化石や，石としては個性の強いサヌカイト，軽石などでした．黒曜岩は島根県では隠岐に産出することを知っているお客さんが多く，比較的馴染みがあったようです．特に所内の若手研究者がイタリアから採ってきたヘルメット大ほどもある大きな黒曜岩には多くの方々が感心していました．火山弾としては雲仙普賢岳の平成噴火で噴出したものを展示しました．まだ記憶にも新しいこともあってか，多くの方が持ち上げてみていました．サヌカイトは糸でつるして小型のハンマーで叩けるようにしたところ，その金属的な音が多くの方の関心をひいたようです．実際に讃岐地方で楽器演奏を聴いたことがあるというお客さんもいました．

小さな子供でも総じて展示物に対するマナーはよく，持ち上げたり叩いたりしても結局壊れた石はありませんでした．もともと子供向けの企画として考えたのですが，ご両親の方が熱心にさわって行かれる場面もしばしばでした．特に軽石やスコリアは見ただけではあまり印象に残らないかも知れませんが，持ち上げてみればその特異さがはっきりわかります．「地質学は手を動かすことから始まる」とは学生時代の野外実習のときに教えられた言葉ですが，本来は「ハンマーを上手に使え＋ノートへの記載を怠るな」と言う意味です．でも，展示に関しても見るだけよりもさわって覚えた方が印象に強く残るようですね．

YOSHIKAWA Toshiyuki (2001)：Touchable rock sample display in Shimane.

＜受付：2001年1月31日＞